

即席麺

「世界ラーメンサミット」開く

栄養と健康など「マニラ宣言」採択

世界ラーメン協会(WORLD INSTANT NOODLES ASSOCIATION)略称:WINA、安藤宏基会長。会員

7年ぶりの対面開催で、会場となった「シヤングリ・ラ・ザ・フォート・マニラ」には世界各国・地域からWINA会員である即席

席麺メーカーや食材サプライヤーなど250名超が参加した。

初日のあいさつで安藤宏基会長(写真)は、WINAの歴史と現状、今後の取組課題について、1958年の「チキンラーメン」誕生から1997年の世界

コロナの影響で家庭内消費が急増し、原材料価格上昇や賃上げによる値上げがあったものの、430億ドル規模に成長していることを報告。栄養強化商品やエコパックなどの新たな商品開発が市場活性化につながっていると分析。



そして世界的な課題へ対応するための具体的目標である「WINA Challenge Target」の重要性を強調し、「結果ありきではなく、各理事やメーカーがポジティブに取り組むことが一番大切」と述べた。

先立つ開会では、ホストであるフィリピン即席麺大手・モンデニッシンのヘンリー・スサントCEOが開会であいさつし、「フィリピンでのWINAサミットの意義を強調。さらにフィリピンの多様な文化的背景に触れながら、即席めんが世界中で1200億食に達する普及率を誇る食品になったと紹介し、「世界は常に変化し、それは加速している。今後も進化し続けなければならない」と述べ、持続可能なイノベーションを通じて世界の消費者に貢献していく決意を表明した。

26日には総括として、WINAの新たな活動方針「マニラ宣言」を採択した。

内容は、「現在インスタントヌードルは世界で年間1200億食以上が消費される、グローバルフードとなった。今日、世界は気候変動や栄養不良といったさまざまな課題を抱えているが、我々インスタントヌードル業界は、こうした社会課題に対して全力で取り組んでいる。インスタントヌードルは開発当初の、①美味しい ②安全・安心 ③簡便 ④長期保存 ⑤安価の開発5原則に「栄養・健康」と「環境保全」の2つの要素を加えた7原則を掲げている。

前回のバリサミットでは、「栄養と健康」「環境保全」「食品安全」「その他社会課題の解決」の4つを重点分野と定め、業界をあげて加盟企業が世界各地で積極的に重点分野への取り組みを行う自主目標として「WINA Challenge Target」を設定した。

「栄養と健康」=減塩・減脂への取り組み、即席麺製品の栄養バランスの改善などを通じ、より健康的な製品の提供を目指す。「環境保全」=資源の有効活用、温暖化ガスの排出抑制、廃棄物削減、エネルギー消費削減や再エネ活用などを進める。「食品安全」=品質管理徹底や正確な製品情報提供などを通じて、生産から消費までのすべての段階で製品の安全性向上に努める。「その他の社会課題の解決」=災害支援や原料生産者による持続可能な農法に対する支援などの取り組み



により、人々のウェルビーイングの構築に貢献する。マニラサミットでは、この取り組みを初めて対外的に公表。世界の業界全体が連帯し、政府機関・その他の団体との連携を行うことで、さまざまな社会課題に取り組むことを目指す。

また4つの重点課題で各フォーラムが行われ、「社会課題の解決」のセッションでは、安藤WINA会長から会員企業それぞれの地域において、社会貢献活動を推進する「WINA Day」の実施が提案されるなど、世界が抱える様々な課題に対し、国境や文化の違いを越えた取り組みのアイデアや、連携の重要性について活発に議論がなされた。WINAは、「今後も即席麺が世界の人々に必要とされ、選ばれ続ける食品であるよう、製品の安全性・品質向上につながる有益な情報の会員企業への提供をはじめ、業界のトレンドおよび先進的な事例を知るこ